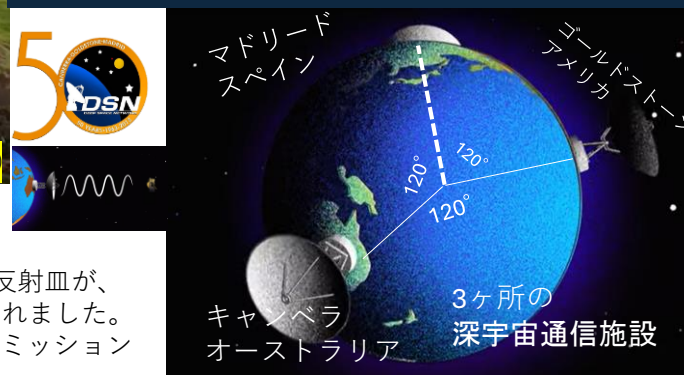




打上1977年9月5日 経過時間47年27日22時間
地球からの距離 約250億km
電波の届く時間 約22時間54分 *2024年10月3日20:00現在
<https://science.nasa.gov/mission/voyager/where-are-they-now/>



宇宙船を追跡・制御し、収集科学情報を受信
ゴールドストーン
アメリカ



美しい写真に次の説明が添えられています ①

うれしいニュースです！ 122トン、35メートルの反射皿が、オーストラリアの新しい深宇宙通信アンテナの上に設置されました。この4番目のアンテナにより、太陽系全体にわたる深宇宙ミッションの拡大を継続的にサポートできるようになります。

https://x.com/home?utm_source=homescreen&utm_medium=shortcut

世界には3ヶ所の深宇宙ネットワーク (DSN) の深宇宙通信施設があり、NASAのジェット推進研究所 (JPL) によって運用されています。JPLはNASAの惑星間探査計画の多くを運用していることで有名です。

各サイトには、直径70mの巨大なアンテナを1つを含む多数のアンテナを運用しています。

あのボイジャーからの電波を受信し70mのアンテナは、地球から数百億マイル離れた宇宙船を追跡できる、最大かつ最も感度の高いDSNアンテナです。

例えばマドリードのウェブサイトの現在のミッション一覧を見ると、ボイジャー1号 (1977～)、ボイジャー2号 (1977年～)、チャンドラ (1999年～)、はやぶさ2 (2003年～)、あかつき (2010年～)、ジェイムズ・ウェッブ (2021年～) ...と多くの衛星の名前がみえます。日本とも関係が深いようです。ボイジャー1号と地球との間の距離の数字をみておどろきます。

ボイジャーまで電波が届くのに約23時間もかかります。そのような仕事をしている施設があるのですね。しかもその様子がウェブサイトで確認できるようになっています！。*特記ない画像→©NASA

「現在のDSN」は3ヶ所の施設のアンテナの受信と送信を示しています
どの衛星と通信しているかを正確に知ることができます！

<https://eyes.nasa.gov/dsn/dsn.htm>



JAXA美笹 (みさき) 深宇宙探査用地上局

深宇宙探査機との通信を目的として、長野県佐久市に建設された新しい地上局で。2024年4月定常運用開始「はやぶさ2」から採用したKa帯にも対応。
また、将来の月・ラグランジュ点ミッション支援への拡張性を備えている

